

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-Ncb_2010(v.1.6)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	長岡京阪急新駅前PJ	階数	地上5F
建設地	長岡京市友岡4丁目618-1他9筆	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	60人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	7,300時間/年
建物用途	飲食店、病院、集合住宅、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年8月 竣工	評価の実施日	2012年9月5日
敷地面積	1,527 m ²	作成者	下岡浩
建築面積	751 m ²	確認日	2012年9月10日
延床面積	1,968 m ²	確認者	下岡浩



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 3
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合 太陽光発電パネルの使用。雨水の利用と言った再生可能エネルギーの活用。又、効率の高い節水型設備機器を活用。高効率の照明器具(LED)の採用を行う。敷地内緑化の確保等により環境負荷を軽減し地球温暖化防止に努める。景観上の配慮として周辺環境に対して調和が図れるような意匠形態、色彩を選択した。	その他 建設工事に関しては、工事地内での廃棄物の処理(処分場での処理等)についての徹底。建設リサイクル品については可能な限り当工事にて利用する。(リサイクル骨材、Eマーク製品の積極的採用等)	
Q1 室内環境 四季を通じて、快適な室温が確保できる設備容量を設定する。(共同住宅住戸はもちろんであるが1,2階店舗部(テナント部)については賃借人に負う事が主であるが、必要設備設置可能な様にA工事範囲で配慮する。	Q2 サービス性能 1,2階店舗については「Q1」に同様であるが、共用部分であるエントランスホール廻りについては、ゆとりのある空間及び快適な環境形成に努める。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内緑化スペースを可能な限り確保し平面駐車スペースに於いては、緑化ブロックにより芝生を植栽し敷地周辺景観に対しての配慮を行う。
LR1 エネルギー 太陽光発電システムを採用し可能な限り共用部分に対しての電力補充が行えるように配慮する。住戸内については内外断熱工法を採用及び開口部ガラスについて複層ガラス(LOW-E)使用により省エネ対策を行った。1,2階店舗部分外周部開口部に付いても全て複層ガラス(LOW-E)を採用した。又、サッシは遮音対	工事 住戸部分に付いて節水型設備機器(特に便器)を採用した。	LR3 敷地外環境 外構の舗床について、ヒートアイランド対策の一環として、保水性アスファルト舗装及び保水性ブロック舗装を採用した。又、敷地周囲に高、中、低木を植栽する事により敷地周辺に対する環境、景観に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される